

一 東寺

概説

上島 有

2

◆文書の管理◆

加賀百万石前田侯寄進の桐箱

① 東寺百合文書収納桐箱

上島 有

6

奉行が手文箱で管理の文書

② 久世方手文箱送進状

黒川 直則

8

三聖人が御影堂で管理の文書

③ 西院文書出納帳

黒川 直則

10

文書を補う貴重な記録

④ 廿一口方評定引付

橋本 初子

12

◆東寺の沿革◆

「鎮護国家」祈禱の史料

⑤ 後七日御修法修僧交名

上川 通夫

14

弘法大師信仰（「弘法さん」）のはじまり

⑥ 延応二年教王護国寺西院御影供始行次第

新見 康子

16

後宇多法皇の東寺帰依

⑦ 後宇多法皇院宣

上島 有

19

足利尊氏の東寺保護

⑧ 足利尊氏御内書

久留島典子

21

足利義持と五重塔の修理

⑨ 足利義持自筆御内書

新見 康子

23

「弘法大師行状絵詞」の複雑な作成過程

⑩ 大師絵用途注文

宮島 新一

25

◆東寺の境内と門前◆

金融業を副業にする寺僧

⑪ 前公文所明済跡借物注文

伊藤 俊一

30

南大門の門前に茶店が立つ

⑫南大門前一服一銭茶売人道覚等連署条々請文

吉村 亨 32

寺内での手猿樂を禁止

⑬公文所法眼浄聡等連署手猿樂禁制請文

吉村 亨 34

寺内で曲舞を興行

⑭廿一口方評定引付

脇田 晴子 37

僧侶の悪行告発の投書

⑮寺内落書

酒井 紀美 39

中世より続く「おふなごう」

⑯山城国上久世庄百姓等連署起請文

千々和 到 41

神泉苑の領有権をめぐる争い

⑰東寺重申状案

村井 康彦 43

二 武家

概 説

黒川 直則 46

◆南北朝期の武將◆

書は人なり

⑱北条高時巻数返事

湯山 賢一 50

義詮軍の勝利を願う祈禱の要請

⑲足利尊氏御判御教書

佐藤 和彦 52

論理・合理性を重んじた判決文

⑳足利直義裁許状

榎原 雅治 54

勅封を私封に代えた「日本国王」

㉑足利義満自筆仏舎利率奉請状

上島 有 56

◆室町時代の武將◆

御賀丸の非法な「責取」を叱る

㉒足利義持御判御教書

富田 正弘 58

祈禱への礼状、百十八通

㉓細川勝元巻数返事

富田 正弘 60

庄園を介した、守護大名との交際

㉔山名宗峯(持豊)書状

馬田 綾子 62

応仁の乱、西軍の下知状

㉕斯波義廉下知状

酒井 紀美 64

東寺の下部たちまでが足輕に

㉖廿一口方評定引付

永原 慶二 66

◆戦国期の武将◆

団結強める国人の動きを示す

②7 山城国上久世庄公文寒川家光書状

熱田 公

68

一貫二百文の制札銭

②8 大内義興禁制

黒川 直則

70

布陣の様子ありありと

②9 藤岡直綱書状

黒川 直則

72

嚴罰で上洛後の軍規の維持を図る

③0 織田信長禁制

湯山 賢一

74

三 民衆

概 説

大山 喬平

78

◆各地さまざま―庄園の顔◆

古代豪族の転身と「開発」

③1 県仲子大和国檢牧地処分状

吉川 真司

82

崩れた明治・大正以来の定説

③2 鹿子木庄条々事書案

工藤 敬一

84

契約通りの年貢上納を遅らせる地頭

③3 安芸国三田郷雜掌地頭代和与状

石井 進

86

年貢運送のありさま語る史料

③4 沓屋周重書状案

田中 倫子

88

◆都に近く―久世上下・女御田など◆

堰・井手めぐる紛争、具体的に

③5 山城国桂川用水差図案

黒田日出男

90

通説に反し効力、百姓まで恩恵

③6 関東御教書案

村井 章介

92

十五歳以上の全員が名連ねる

③7 山城国久世上下庄侍分地下分等連署起請文案(土代)

久留島典子

96

寺につきつけた、強硬な夫役拒否

③8 山城国女御田并拜師庄百姓連署下地避状案

須磨 千穎

100

◆日本海に近く―若狭太良庄◆

荒唐無稽でも資料的価値

③9 源国友若狭国太良庄助国名相伝次第(案)

網野 善彦

102

「百姓」が代官の罷免を求める

◆丹波山地の奥―丹波大山庄◆

庄園の領主権をめぐる争い

年貢の保証人は百姓たち

両地域間の用水争いを示す

寺領経営の苦闘の歴史刻む

熊野山宝印そっくりの「牛玉」

◆瀬戸内海に近く―播磨矢野庄◆

逃散の村人ら代官の非法訴え

遺領相続を願う名主の訴状

庄民生活も国家外交とかわり

◆中国山地の奥―備中新見庄◆

宴会・接待・庄園現地の会計

代官祐清の形見を所望した女性

④〇若狭国太良庄惣百姓等申状

高橋 敏子

105

④①丹波国大山庄預所頼尊請文案

高橋 敏子

108

④②丹波国大山庄実検注文

大山 喬平

110

④③丹波国大山庄用水差図案

大山 喬平

115

④④丹波国大山庄西田井内検帳

小林 基伸

117

④⑤丹波国大山庄西田井村百姓等連署起請文

千々和 到

122

④⑥学衆評定引付

佐藤 和彦

124

④⑦播磨国矢野庄内名是藤名々主実長申状

馬田 綾子

127

④⑧播磨国矢野庄供僧方年貢等散用状

村井 章介

131

④⑨備中国新見庄東方地頭方代官尊爾注進状

網野 善彦

135

⑤〇たまかき書状并備中国新見庄代官祐清遺品注文

池田 好信

140

編年文書目録

東寺境内図

東寺領庄園分布図

あとがき

索引

執筆者一覧

約二万点三万通に及ぶ東寺関係文書が現在に伝えられたのは偶然ではない。先人の多大の工夫と努力があったことはいうまでもない。これは数量はもちろん質的にも現存のわが国古代・中世文書としては最高のものであるが、大きく二つのグループにわけることができる。一つは京都府立総合資料館現蔵の東寺百合文書で、京都大学総合博物館現蔵教王護国寺文書もこれに含まれる。もう一つは東寺宝物館現蔵の東寺文書（以下これを「東寺文書」という）である。これはわずか約七百通にすぎないが、伝来・現存状態を考えた場合、第一のグループとは別に考えるのが適当である。したがって、第一グループは最近になって国の重要文化財に指定されたが（教王護国寺文書は昭和四十六年へ一九七二）、百合文書は同五十五年に重要文化財、平成九年へ一九九七に国宝、「東寺文書」はやく昭和二十八年（一九五三）に重要文化財（一部は同二十七年に国宝）に指定されている。これらの文書の保存形態で、もつとも注目されるのは加賀百万石五代目の藩主松雲公前田綱紀による「百合」の寄進である。他の多くの文書群とちがって東寺百合文書とよばれる所以はここにある（①号文書）。

平安時代以来、東寺の法会・祈禱を行い寺院経営を維持するためには、これらの文書は必要かくべからざるものであった。中世の東寺では、廿一口供僧をはじめ鎮守八幡宮供僧、学衆などの寺僧組織は、寺僧による会議をひらいて重要事項を決定した。その議事録が引付である（④号文書）。また一年交替で年預（奉行）をえらびそれぞれの組織の運営にあたらせた。年預の手許にはその組織に必要な文書が手文箱に納めて保管されていたが、それは各組織の手文箱送進状によって毎年確実に引き継がれていた（②号文書）。いっぽう、これらの文書のうちでとくに重要なものは、一部は案文（控）を作って年預の手許に残し、正文は御影堂経蔵（西院文庫）に集められ三聖人が管理した。西院文庫に保管された文書は、訴訟その他の場合に必要におうじて証拠書類などとして貸し出された。この場合、文書の出納の様子は確実に記録され（③号文書）、いずれの場合にも文書は厳重に管理されていたことがうかがわれる。

すでに中世以来東寺では、年預の手許に保管される文書と、そのうちからえらびだされて御影堂経蔵で三聖人が管

理する二系統の文書があった。前者は松雲公の「百合」の寄進とともにその箱に移され、宝蔵に納められて百合文書としてうぶなままの形で現在に及んだ。いっぽう、重要な正文を納めた御影堂経蔵は、中世を通じて一杯になる。そのため、近世になって西院に靈宝蔵が造られて文書類もそこに移され、やがて卷子あるいは懸幅に表装され現在に至っている。これが東寺宝物館に現存する「東寺文書」である。

東寺は、平安遷都間もなく西寺とともに羅城門の東西に国家鎮護の伽藍がらんとして建立された。その後これは嵯峨天皇より密教の根本道場として空海に賜り、真言僧の専任する寺院となった。すなわち東寺は、創建当初より鎮護国家の伽藍と密教の根本道場という二つの性格を有していたのである。空海の理想を表現したといわれる講堂の二十一体の諸仏がそれをよくあらわしている。講堂の立体曼荼羅については諸説が多いが、私は中央に密教の根本經典である『金剛頂經』（『教王經』）による五仏を配し、その左右に『金剛頂經』『仁王經』『守護經』といった密教・鎮護国家の經典による五菩薩・五大明王その他の諸仏をえらんで適宜それを組み合わせる一種新しい曼荼羅を構成したという考え方をとりたいと思う。講堂の諸仏はまさに密教の根本道場と鎮護国家の寺院という空海の理想をあらわしているのである。

それは平安時代の宗教行事にもみられる。後七日御修法ごしちにちのみしほは宮中真言院でおこなわれたが、鎮護国家のための代表的な祈禱である（⑤号文書）。延喜十年（九一〇）、祖師の遺徳顯彰に力を注いだ觀賢によって灌頂院御影供がはじめられ、ながく門徒の重要な所役となった。この二つは平安時代の東寺を代表する法会であるが、東寺の宗教の二面性を示すもので、また東寺だけではなく真言一宗あけての行事であったことも注目される。

鎌倉時代になると、宣陽門院の密教帰依とともに新たに西院に御影堂が成立、毎月二十一日の御影堂御影供みかげだうみかげく（現在の「弘法さん」）をはじめ多くの新しい法会がとりおこなわれることになる。その模様を詳しく記したのが⑥号文書で、中世的な大師信仰の成立ということが出来る。かつて講堂にみられた密教の根本道場としての性格がここに移され、それとともに講堂はもっぱら鎮護国家の堂宇としての性格が鮮明となり「教王護国寺」という考え方が成立する。⑥号文書は觀智院賢宝の筆で、書き出しが「教王護国寺西院御影供始行事」となっている。しかし、これとほぼ同文で、康暦二年（二三八〇）宏寿の手になる文書が觀智院金剛藏聖教一五〇函にあり、その書き出しは「東寺西院御影供始行事」とあり、⑥号の先行形態としてよい。

宣陽門院について東寺保護に力を尽くしたのが後宇多法皇である。法皇は東寺灌頂院で伝法灌頂を受け、弘法大師の末資につらなるとともに山城国押師庄など四力庄をはじめいくつかの庄園を東寺に寄進、また学衆を結成して教学

武將の文書としてここで選ばれたのは全部で十三点である。南北朝期のもの四点、室町時代のもの五点、戦国期のもの四点である。これらは必ずしもそれぞれの時期を代表する文書様式であるとはいえないし、人物がその時期の中心人物という訳でもない。あくまで個別の関心で選ばれた十三点なのである。むしろ多様な関心で選択されていることが本書を興味あるものに行っていると見えよう。したがって、これらについて包括的に概観することは困難である。以下、個別の解説では触れられなかった関係史料や類例史料の残り具合といった観点から一点ずつに触れていくことにする。

【南北朝期の武將】

南北朝時代の武將としては北条高時・足利尊氏・足利直義・足利義満の四人が取り上げられている。北条高時は最後の得宗（北条氏の家督）として、鎌倉に攻め込んできた新田義貞と戦い、破れて東勝寺で自刃し果てた。これによって鎌倉幕府が崩壊したのであるから、南北朝内乱の幕開けを語るにふさわしい人物である。ところで、北条高時の巻数返事は東寺百合文書のなかではやや特異な文書といえるものである。というのは、東寺百合文書のなかに残る鎌倉時代の武家文書は、ほとんどが関東御教書・関東裁許状・六波羅御教書といった庄園の権利にまつわる公的な文書である。私的な文書はほとんど無い。鎌倉時代の祈禱の巻数返事はこれ一通だけと思われる。ところで、この文書は別に案文が残っている。巻数返事の案文はめずらしい。拝師庄関係の文書六通のうちの一通として案文が作成されているのである（千函二二号文書）。しかも、次の文書（せ武函一〇号）の案文に続いて写されていることが注目される。

〔端裏書〕
「守時返事」

山城国拝師庄以下事、被付教王護国寺之由、謹承候畢、以此旨可令洩披露給候、守時恐惶謹言

〔押紙〕
「嘉暦三年」

十月廿日

〔北条〕
相模守守時（裏花押）

絵画や彫刻にくらべて古文書はちよつとばかり無愛想である。もちろん例外はあるのだが、見る者にたいして直接、全身で訴えかけてくるわけではない。自分で愛嬌をふりまいてるわけでもない。だが、じつくりと一枚の古文書にむかつてみると、そこにはさまざまな事実と情報が隠されていて、それが分かつてくるとこれはまた実に身近な親しみぶかい顔を見せるようになる。そこは秘密の箱を覗くような楽しみに満ちている。東寺百合文書もそうである。

中世の東寺は全国各地に領地をもっていた。この領地のことを庄園という。庄園にはさまざまの人々が住んでいた。中世の庶民はたいどこかの庄園領主の庄園に住んでいた。たいどの庄園領主は滅んでしまい、領主のところにあつた古文書もなくなってしまった。でもいくつかの領主は生きながらえ、古文書も残された。東寺百合文書はその代表的な文書であつて、先ほど国宝になつた。

私たちの先祖、中世の庄園に生きた人々の代表が東寺百合文書のなかにいる。ここを通して中世庶民の素顔がきつとみえてくる。

東寺には多くの庄園があつた。でも東寺にとつてたいせつだつた庄園と、比較的そうでなかつた庄園がある。

たいせつな庄園はそこから長い間、年貢がとどき、東寺がそれで生き延びてきた庄園で、こういう庄園には古文書がたくさん残されている。京都の西を桂川が流れている。その桂川を越えたすぐのところには東寺領の山城国上久世庄と下久世庄があつた。ここからは東寺の五重塔がよく見えたはずである。それに現在の福井県小浜市の郊外に位置した若狭国太良庄。現在の兵庫県、篠山盆地の西方にあたる丹波国大山庄。現在の兵庫県相生市で、瀬戸内海に面した播磨国矢野庄。また中国山地の奥、現在の岡山県新見市にあつた備中国新見庄などが文書の多い庄園である。

しかしもちろんこのほかの庄園も長い歴史のあいだにそれぞれ東寺とかかわりをもつた庄園で、そうした庄園の古文書からもさまざまなかの庄園の歴史が見えてくる。

【各地さまざま―庄園の顔】 十世紀の後半、貞元三年（九七八）に、あがたのなかの 県仲子という一人の女性が大和国宇陀郡の土

本書は東寺百合文書が国宝に指定されたことを記念して、京都新聞の文化欄に連載された「中世の宝箱―国宝・東寺百合文書を読む―」を基礎に編集したものである。一九九七年五月五日から翌年六月一日まで、毎週月曜日の四十八回にわたる連載であった。連載を開始するにあたり、京都新聞社からの依頼によって私たち三人が執筆をお願いする方の人選や文書の選定について議論に加わることにした。執筆者については、東寺百合文書をこれまでの研究に生かしてこられた方々を中心にお願いすることにした。文書の選定についても三人で決めてしまうのではなく、執筆者に自由に選んでいただくことにした。ただしどうしても欠くことのできないもの十九点を選んで分担をお願いした方もある。

この文書の選定を執筆者に任せるといふ方法は、成功したのではないかとひそかに自負している。東寺百合文書について第一線に立つ研究者三十二人が、二万点の文書の中から、それぞれの関心に従って文書を選定したことになる。選ばれた文書は多岐にわたった。上皇や将軍の文書もあれば、名も無い農民や女性の文書もある。内容的に見ても政治史や経済史にとどまることなく、外交史・民衆史・宗教史・美術史・芸能史といった広範な分野にわたっている。

このような多様な関心にこたえうるのが、東寺百合文書のもつ魅力の一つなのである。しかも、各執筆者が最も得意とする一点の文書を取り上げ、隅々まで読み解くことによって、古文書を読む楽しみを満喫させてくれる結果となったのである。

多様な視点から選ばれた文書がつきつきと新聞に紹介されはじめると読者の反響は大きかった。いろいろな意見が京都新聞社に寄せられたが、なかでも連載の完結後に一冊の本にまとめてほしいとい

う意見が多いと聞かされた。連載が進むなかで私達も京都新聞のエリアである京都府と滋賀県以外の方にも読んでいただきたいという気持ちが強くなっていき、本書の誕生となった次第である。

本書の編集にあたっては、新たに二点の文書を加えて五十点にしたうえで、次の二つの工夫をした。第一は写真を見易くした上で、釈文を付したことである。写真はできるだけ大きくしただけでなく、算用状など長尺なものを除いて全体を収めるように努力した。第二は章立てを付したことである。京都新聞の連載のときには順序にあまりこだわらなかつた。最初の数回については執筆の期日を切ってお願したが、あとは原稿ができた順に掲載した。そのほうが気軽に読んでもらえると判断したためである。しかし一冊の本にするためには、若干のまとまりも必要になるし順序も問題になる。いろいろ議論したが三章に分けることになった。したがって本書は原稿ができてから章立てしたものである。すべての文書が納まりよいとはいえない点がある。不本意な執筆者があるかもしれないが、すべては読みやすくするための工夫として了承いただきたい。

最後に、本書ができる過程でお世話になった多くの皆様にお礼を申し上げます。まず多忙なか京都新聞に寄稿していただいたうえ、本書への転載を認めていただいた執筆者各位である。つぎに本書の原型を作ってくださった京都新聞社の坂井輝久さん、深萱真穂さん、三田真史さんである。写真の掲載を許可してくださった京都府立総合資料館にも謝意を表したい。なかでも総合資料館の小森浩一さんには再三にわたって写真の追加注文をするなどご迷惑をおかけした。思文閣出版の林秀樹さん、原宏一さんには有意義な提案を数多くいただき、直接に本書を担当してくださった中村美紀さんにはとりわけ忙しい思いをさせてしまった。

松尾神社	79
松永久秀	74
万里小路季房	19
万里小路宣房	19
万里小路藤房	19
満濟准后(三宝院門跡)	23,56
満濟准后日記	23
曼荼羅	3,14

み

御影供(→灌頂会御影供・御影堂御影供)	14,60
御影堂(東寺)	3,4,10,16,41
御影堂経藏	2,3
御影堂牛玉宝印	5,41,122
御影堂御影供	3,16
御教書	23
巫女	37
三田郷(安芸国高田郡)	79,86
湊川	21
南小路散所	34,37
源朝国	102
源朝高	102
源義高	102
源頼朝	23
宮田庄(丹波国)	115,117
宮仕	32
明源房	23
名主	81,96,124,127,140
三好長慶	49,72
三好孫五郎	49
三好三人衆	74
美和庄(周防国)	79,88
明皇帝	58,131
明使	131

む・め

向日神社	68
六人部氏	102
室生寺	82
室津	131
室町殿	58,60
室町幕府	47,52,54,62,64,127
明濟法眼	30

も

蒙古合戦	84
申状	105,124,127
物集女(山城国)	68
物部守屋	102

文書出納帳	10
や	
安富智安	140
矢野庄(播磨国)	30,54,62,124,127,131
山城国一揆	68
大和猿樂四座	34
山名宗全(持豊、宗峯)	48,60,62,64
山名時氏	52
山名時熙	62

ゆ

融覚	10
祐高(絵師)	25
祐重(宝蔵院)	72
祐清	81,140
祐尊	81,124
湯起請	12

よ

用水・用水図・用水相論	80,90,115,117
吉田定房	19
寄合	81,124,140

ゆ

頼尊	80,108
米納	80,108
落書	4,39

り

理趣三昧	8
略押	80,110
隆巖	16
繪旨	12,43,47

れ

靈宝蔵(東寺)	3
---------	---

ろ

六波羅探題	92
六波羅御教書	46
六角義賢	72

わ

和市	135
和与	79,86

豊臣秀吉	4
土倉	30

な

内管領	50
内検帳	80, 117
長崎高資	50
那波浦(播磨国矢野庄)	54
名和長年	21
南大門(東寺)	32
南北朝動乱	30

に

新見庄(備中国)	78, 91, 135, 140
西岡(山城国)	21, 48, 64, 96
西田井(丹波国大山庄)	80, 115, 117, 122
西八条西庄(山城国)	90
廿一口方供僧	2, 8, 16, 37, 131
廿一口方年預	2, 10, 12
廿一口方評定	34, 37
廿一口方評定引付	12, 37, 48, 66
二条河原落書	39
二条城	74
新田義貞	21, 46
「日本国王」	56, 58, 131
日本書紀	102
人夫	131

ね・の

年貢	79, 88, 100, 108, 110, 117, 131
能楽	34, 37
野口庄(丹波国)	10
野伏	100

は

持師庄(山城国)	3, 19, 46, 47, 80, 100
幕府奉行人奉書	12
畠山直宗	52
畠山政長	60
畠山義就	64
疾足	66
範俊	14
半装束年珠	16
半濟	21

ひ

松牧庄	82
兵庫	21, 79, 88, 131
評定引付	2, 8, 12, 48, 124

ふ

奉行人	96
奉行(年預)	2, 8, 10
福本盛吉	81, 140
藤岡直綱	48, 49, 72
藤原隆通→願西	
夫賃	135
仏舍利・仏舍利奉請状	14, 47, 56
仏隆寺	79, 82
不動堂(東寺)	16
不動明王像	16
船岡山	70
フロイス, ルイス	74

へ

平家物語	66
返抄	110
遍照心院領(京都八条)	66

ほ

放下	37
放生会	8
北条高時(崇鑑)	46, 47, 50
北条守時	47
宝莊藏院方供僧	8
北条氏得宗	102
奉書紙	23
宝藏(東寺)	2, 6, 56
保曆間記	50
宝輪院(東寺)	66
細川顕氏	52
細川勝元	48, 60, 64
細川澄元	70
細川高国	70
細川晴元	72
細川政賢	70
細川政元	68, 70
細川持賢	48
細川持之	60
細川元常	70
凡下	92
本草(漢方薬)	32
凡僧別当	16
本領回復	84

ま

前田綱紀(松雲公)	2, 6, 10
町衆	34

正文	2,3,10,88,96
書状	48,49,68,72
処罰文言	74
処分状	82
白河法皇	14
白拍子	37
心海	16
親巖	16
親泉	16
真言院	3,14,43
神泉苑	5,14,43

す

水精年珠	14
菅原(唐橋)在綱	43
相撲節会	34
墨継ぎ	19

せ

世阿弥	34,37
盛教	16
制札錢	70
清浄(尼)	84
成助(真光院)	21
製鉄	81,135
青墨	19
石龕寺(岩屋山)	81,122
瀬戸内海	78,79,81,131
千秋万歳	34
船頭	88
泉涌寺長老	23
錢納	88,135
善祐(絵師)	25
宣陽門院親子内親王	3,16

そ

宋	32
惣	68
造管方	10,30
聡快	37
惣議	124
宗寿	10
増長院(東寺)	66
増祐	37

た

大阿闍梨	14,19
代官	80,81,88,105,108,124,127,140
大勸進職	23

太極	66
大般若經	8,21
太平記	50,66
平庄(太良庄)	102
高瀬村(備中国)	135
竹田(山城国)	80,100
たまかき	81,140
太良庄(若狭国)	78,80,102,105,135

ち

茶屋(茶店)	32
趙居仁	131
逃散	81,124
勅封	56
陳状	92
鎮守八幡宮	4,21,23
鎮守八幡宮方供僧	2,4,8,21

て

手猿楽	4,34
手文箱	2,8,10
田楽	50
天下布武	74
天狗	50
伝法灌頂	3,19

と

塔供養	23
東西九条女御田(山城国)	10,80,100
東寺絵所職	25
東寺觀智院金剛藏聖教	16
東寺境内	4
東寺執行職	108
東寺長者	14
東寺奉行	12
東寺文書	2,3
東勝寺	46,50
唐船	131
東大寺文書	6
東福寺	66
東宝記	16
土岐周濟	52
徳政	41
徳政令	79,84,92
得宗	46,50
土豪	82,117
渡唐船	88
殿原	96
鳥羽・鳥羽庄(山城国)	10,14,80,100

弘法大師行狀繪詞	4,25
弘法大師(→空海)	3,16,19,41,56
弘法大師信仰(大師信仰)	3,4,16
弘法大師像	16
高野山文書	6
牛玉宝印	5,41,81,122
国衙領	86
国司	79,84,86,135
国人	58,68
御家人	92
後三条天皇	19
後七日御修法	3,14,60
五重小塔	16
五重塔(東寺)	23
後白河法皇	16
巨勢行忠	25
後醍醐天皇	4,19,21,39,47,79,81,86,135
五大尊	14
五大明王(東寺講堂)	3
国家祈禱	4
国家鎮護の伽藍	3,4
後土御門天皇	12
事書	79,84
御内書	23
後花園天皇	43
御判御教書	47,48,52,58
五仏(東寺講堂)	3
五分一濟	68
五方算(散)用狀	62,70
五菩薩(東寺講堂)	3
是藤名(播磨国矢野庄)	127
金剛界	14
金剛頂經(教王經)	3
壱田永代私財法	84

ㇿ

西院経藏・西院文庫	2,10,16
裁許狀	47,54
最勝光院方供僧	8
割符	135
歳末祈禱	47,50
藏王堂	52
佐方浦(播磨国矢野庄)	54
嵯峨天皇	3,4,60
佐々木道誉	52
差(指)図	79,90,115
雜掌	37,79
侍・侍分	79,96
猿樂	34

寒川家光	48,68
三時勤め	16
散所・散所法師	4,19,37
三聖人(西院聖職)	2,10,140
散用狀・算用狀	131

し

地口銭	12
地下分	64,79,96
寺僧	4
焔燭役	16
下地中分	110,115
執権	50
実檢注文・実檢帳	110
地頭(地頭職)	79,81,86,100,110,115,135,140
地頭請	110
寺内町	4
寺内落書	4
斯波義廉	48,64
斯波義将	23,58
柴田勝家	74
私封	56
下久世庄(山城国)(→久世上下庄)	21,92
舍利会	14
舍利講	16
朱印	74
朱印狀	4
十三日講	81,124
重舜	80,110
重增(宝勝院)	39
十二天	14
十八口供僧	16
守護・守護職・守護大名	60,62,79,105,124,127
守護経	3
修正会講	41
寿妙	84
俊尊(金剛乘院)	58
松雲公→前田綱紀	6
庄園市庭	81
庄園領主	54,68,78,80,105,110,115,124,140
定額僧	16
將軍	52,64,70,74
相国寺	30,140
生身供料所	10
紹清(正覚院)	8
正中の変	19
正長の土一揆	30
聖德太子	80,102
声聞師	34,37

鹿子木庄(肥後国)	79,84
鎌倉	52,92
鎌倉幕府	46,50,92,127,135
鎌倉幕府法	92
上桂庄(上野庄、山城国)	19,30
上久世庄(山城国)(→久世上下庄)	48,68
烏牛玉	122
川原寺(飛鳥)	58
河原城庄(大和国)	58
観阿弥	34,37
勧学会	86
観賢	3
寛呆	84
願西	84
卷数・卷数返事	46,47,48,50,60
灌頂院・灌頂院關伽井・灌頂院御影供	3,16,19,32
灌頂会	14
勧進	23
観智院(東寺)	4
關東裁許状	46
關東御教書	46
官符	10,12
桓武天皇	43
管領	60,64,68,140

き

祈雨	43
祇園御霊会	37
起請文	5,39,41,96,122,124,140
寄進状	54
北畠親房	19
北山山荘・北山第	30,58
『喫茶養生記』	32
祈禱所	50,60
祈禱料所	58
久行(絵師)	25
教王護国寺	3,4
教王護国寺文書	2,88
教王護国寺半玉宝印	41
狂言	34
行遍(仁和寺菩提院)	16
交名	14
切り封	23
禁制	49,70,74

<

空海(→弘法大師)	3,4,5,14,58,60
具書	84
楠木正成	21

楠木正行	52
久世・久世庄・久世上下庄(山城国)(→上久世庄、下久世庄)	8,30,48,72,78,79,80,90,96
山舞	4,37
供僧→最勝光院方供僧・鎮守八幡宮方供僧・廿一口方供僧・宝莊嚴院方供僧	8,10,12,16,19,21,84,108
沓屋周重	79,88
国下用	131
国持	68
公人	66
熊野牛玉	122
熊野三社	122
熊野比久尼	37
公文・公文職	21,96,127,131
公文所	30,37,68,88,105
倉付	135

け

恵果	56
慶清	10
下剋上	124
下司	21,96,100
結縁灌頂	60
結解状	135
下知状	48,64
闕所	96
検見納帳	135
賢恵	82
嚴海	16
元弘の変	19
嚴増	80,108
検注・検注帳	86,127
源平盛衰記	66
嚴遍	16
賢宝(観智院)	3,16
建武政府・建武の新政	86,135

こ

好古小録	25
光嚴上皇	21
高札	70
宏寿(宝嚴院)	3,16
康勝	16
嗷訴	124
後宇多院御起請符	12
後宇多法(上)皇	3,4,19,54,81,100,124,127
講堂(東寺)	3,4
講堂仁王経読経	58
高師直	47,52,54

索引

あ

県	82
県奥継	82
県清理	82
県仲子	78, 79, 82
赤松政則	60
赤松満祐	48, 62
赤松義則	48
悪党	52, 80, 108, 127
足利尊氏	4, 21, 46, 47, 49, 52, 54, 62
足利直義	46, 47, 52, 54
足利義昭	49, 74
足利義詮	47, 52
足利義材(義尹)	70
足利義澄	70
足利義嗣	58
足利義輝	72
足利義教	60, 62
足利義尚	12
足利義政	12, 60, 62, 64
足利義満	30, 46, 47, 56, 58, 100, 131
足利義持	23, 30, 48, 58
足輕	66
預かり状	88
預所(預所職)	80, 84, 108, 110
安達時顕	50
阿弥陀三昧	8
案文	2, 10, 46, 96, 100

い

飯尾之種	96
一井谷(丹波国大山庄)	80, 110
市庭在家・市庭都市	81, 135
一味神水	81, 124, 140
一揆	30, 41, 79, 96
一色詮範	48
一色範光	48
一服一銭茶売人	4, 32
今村慶満	49
石成友通	74
岩屋山宝印	81
院宣	19, 108

う

上杉重能	52
請所	86
請文	4, 32, 100, 108
菟田県主	79, 82
内野	43
有徳役	30
運慶	16

え

栄西	32
栄盛(観智院)	72
永仁の徳政令	79, 84, 92
永和の惣庄一揆	81, 127
絵師	25
絵所	25
円章	16

お

応仁の乱、応仁・文明の乱	48, 60, 64, 66, 68, 105
押領	88, 108, 110
大内義興	48, 49, 70
大江匡房	19
大山庄(丹波国)	78, 80, 108, 110, 115, 117, 122, 135
大湯屋	12
織田信長	4, 48, 49, 74
おふなごう	5, 41
御賀丸(暦)	56, 58

か

快玄(清浄光院)	8
鶏冠井(山城国)	68
花押	49, 54, 60, 96
覚教	16
学衆・学衆方	2, 3, 8, 10, 12, 19, 21, 131
学衆方評定引付	12
神楽	34
笠置落ち	19
桂川	78, 79, 90, 96
合点	30
金沢貞顕	50
狩野宣政	49

■執筆者一覧

※故人は、初版発行時の所属を()で示した

上島 有(うえじま たもつ)	摂南大学名誉教授
大山 喬平(おおやま きょうへい)	京都大学名誉教授
黒川 直則(くろかわ なおのり)	元京都府立総合資料館職員
熱田 公(あつた こう)	(大手前女子大学教授／兵庫県立歴史博物館館長)
網野 善彦(あみの よしひこ)	(歴史研究者)
池田 好信(いけだ よしのぶ)	元京都府立総合資料館資料主任
石井 進(いしい すすむ)	(東京大学名誉教授)
伊藤 俊一(いとう としかず)	名城大学教授
馬田 綾子(うまた あやこ)	梅花女子大学教授
榎原 雅治(えばら まさはる)	東京大学史料編纂所教授
上川 通夫(かみかわ みちお)	愛知県立大学教授
工藤 敬一(くどう けいいち)	熊本大学名誉教授
久留島典子(くるしま のりこ)	東京大学史料編纂所所長
黒田日出男(くろだ ひでお)	東京大学名誉教授
小林 基伸(こばやし もとのぶ)	大手前大学教授
酒井 紀美(さかい きみ)	元茨城大学教授
佐藤 和彦(さとう かずひこ)	(東京学芸大学教授)
須磨 千颯(すま ちかひ)	南山大学名誉教授
高橋 敏子(たかはし としこ)	東京大学史料編纂所准教授
田中 倫子(たなか みちこ)	
千々和 到(ちちわ いたる)	国学院大学教授
富田 正弘(とみた まさひろ)	富山大学名誉教授
永原 慶二(ながはら けいじ)	(一橋大学・和光大学名誉教授)
新見 康子(にいみ やすこ)	東寺文化財保護課長
橋本 初子(はしもと はつこ)	京都精華大学元教授
宮島 新一(みやじま しんいち)	元奈良国立博物館学芸課長
村井 章介(むらい しょうすけ)	立正大学教授
村井 康彦(むらい やすひこ)	国際日本文化研究センター名誉教授
湯山 賢一(ゆやま けんいち)	奈良国立博物館館長
吉川 真司(よしかわ しんじ)	京都大学教授
吉村 亨(よしむら とおる)	京都学園大学教授
脇田 晴子(わきた はるこ)	元滋賀県立大学教授

(2014.11.10現在)

とう じひやくごうもんじよ よ
東寺百合文書を読む

よみがえる日本の中世
にほん ちゆうせい

平成10(1998)年12月1日初版発行
平成27(2015)年3月1日第2刷

編者

上島有・大山喬平・黒川直則

発行者

田中 大

発行所

株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 電話 075(751)1781代

定価：本体2,500円(税別)

印刷／図書印刷同朋舎

© Printed in Japan, 1998

ISBN978-4-7842-0978-1 C1021